



# 碧の風

千葉市立川戸中学校  
校報 第3号  
令和5年6月20日

にちにちこれこうじつ

## 日日是好日

校長 板垣 章子

学校では、5月から6月にかけて、大きな行事が行われました。

一つ目は体育祭です。平日の午前中開催でしたが、小規模校である本校生徒にとっては、ちょうどよい時間配分と内容であったと思います。全学年が紅白に分かれ、3年生のリーダーシップの下、熱戦が繰り広げられました。川戸中の伝統ともいえる「ソーラン節」は、全校生徒による迫力ある動きと掛け声による見事な演舞で、見ている人に大きな感動を与えてくれました。特に今年は参観者の人数制限がなかったため、多くの保護者や学校評議員の方々、さらに川戸小学校の6年生にも見てもらうことができました。

二つ目は、3年生による修学旅行です。信州方面へバスで行き、上高地、諏訪、奈良井宿、大王わさび農場、松本城などを巡る2泊3日の旅でした。出発までの日々は、生徒たちの体調管理から始まり、地震や線状降水帯による大雨被害など日本各地の災害のニュースが報道されるたびに、「とにかく無事に実施できるように」ということばかりを願っていました。幸い、初日と二日目は晴天に恵まれ、絵葉書のように美しい信州の風景を堪能することができました。三日目の最終日は雨に降られてしまいましたが、屋内の体験学習であったため、ほぼ予定通りのスケジュールを終えることができました。学校到着後に風雨が強まり、最後の最後にずぶぬれになってしまった生徒がいたり、迎えの保護者の方々にご不便をかけたこともありましたが、義務教育最後の校外学習を生徒たちは心に刻み込むことができたようです。

しかし私には、一つ心残りがありました。それは、校長である私自身が修学旅行直前にコロナに感染して高熱を発し、急きょ引率責任者を教頭先生に交代してもらったことでした。多方面にご迷惑をかけてしまったこと、5類感染症への移行後も、コロナに対しては油断せずに個別の感染対策が必要であることを、心の底から実感し、反省しました。

生徒たちにとっても、毎日、さまざまなことがあります。一見、楽しく充実していたように見える行事の日々でさえ、いろいろな心の葛藤がひそんでいます。晴れの日、雨の日、うまくいった日、心がどんよりした日など、何も感じない日々はなく、それが生きているということなのでしょう。

それでも、若い子供たちには明日を信じて前を向き、一步一步進んでいってほしいと思います。



梅雨空に映えるあじさい